

いの町史編さん室だより (No.15)

広報7月号に、いの町史「未来へのメッセージ」の応募用紙を挟み込んでいましたが応募いただけましたでしょうか？当初は締切日を9月30日としておりましたが、より多くの皆さんにメッセージをいただきたく、**締切日を来年の平成26年1月10日（金）まで延長することになりました。**ご家族、ご友人に声かけをしていただき、**ふるって応募ください。**寄せられたメッセージはお名前と共に半永久的に町史に残ります。また投函箱は、本庁（1階ロビー）・枝川出張所・八田出張所・吾北総合支所・本川総合支所・すこやかセンター伊野・吾北中央公民館・本川プラチナ交流センター・天王コミュニティセンターの他、新たに、いの町立図書館・いの町観光協会・ぐりぐらひろばに設置しています。なお応募用紙が必要な方は社会教育課（☎ 893-2012）までご連絡ください。

大変おどろいた発見

「高知県のサワガニ色別分布調査」

編さん委員 山岡 道

サワガニにとりつかれて3年の歳月が過ぎました。平成23年7月2日から開始したサワガニ色別調査は、8月18日で終了しました。その間、平成24年は調査を休んでいたの、実質2年間に及ぶ調査期間でした。

調査河川は、1級河川が4か所（仁淀川・吉野川・四万十川・物部川）、2級河川が10か所（奈半利川・国分川・鏡川・安田川・安芸川・伊尾木川・新莊川・松田川・下ノ加江川・野根川）の計14か所です。

調査地点181か所で、全体の採集個体数は2,386匹（雄1,309匹、雌1,077匹）です。色別では、青系統（BL）が714匹、赤系統（RE）が763匹、暗色（茶・紫）系統（DA）が909匹でした。

仁淀川の最大支流の上八川川は、^{うづま}打木は赤色のサワガニばかりで、国道439号の^{こさるだ}小申田・^{ふるえ}古江では赤、茶、青色のサワガニがあり、枝川川の程野は茶、青色のサワガニと、下流から上流にかけて赤、茶、青色のサワガニがいるカラフルな河川でした。

「どうして、いろんな色のサワガニがいるのだろう、色の違いは何が原因だろうか」と調査当初からこの疑問はついてまわりました。

仁淀川の調査段階で、ほぼ国道439号を境に北の三波川帯に青色のサワガニが、また吉野川（三波川帯）上流部の本川・大森川にも青色のサワガニがいたことから、「青と赤色の生息地は地質に関係があるのでは」と思い、続いて吉野川流域を調査しました。その結果、ほとんどが青色のサワガニで、赤色のサワガニは見つかりませんでした。この時点で、色の違いは地質によるものだと確信を持ちました。

仁淀川、吉野川を調査したのだから、四万十川も調査することにしました。四万十川は四万十帯を流れています。思ったとおり四万十川は、赤系統のサワガニが主流で、2か所だけで青色のサワガニを見るにとどまりました。こうして、3河川の調査で、青色のサワガニは三波川帯に、赤色のサワガニは秩父帯と四万十帯に生息していると判断しました。

色の違いは水温、エサによるのではないかと一般的に言われていますが、私は地質に起因しているのではと思うようになりました。

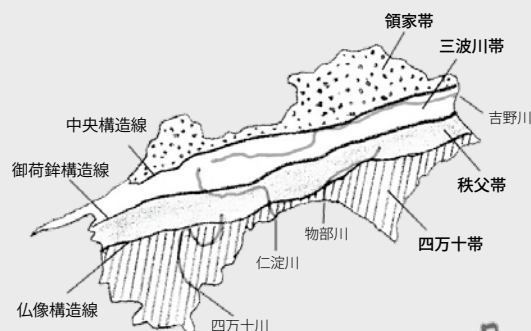
平成24年11月に、3河川（仁淀川・吉野川・四万十川）の調査報告会を行った際に、高知大学農学部関伸吾教授から、大昔徳島の川と物部川はつながっていたと聞きました。

それならということで、3月から物部川に調査に入りました。物部川は秩父帯と四万十帯を流れているので、仁淀川同様に赤系統のサワガニが生息していると思っていましたが、驚きました。私の予想はずれ、青系統のサワガニが生息しており、吉野川と生息状況が似ていました。それでもまだ納得できず奈半利川を調査しました。物部川同様の青系統がいました。安田川、安芸川、伊尾木川、野根川も同様でした。これにより、地質帯で生息が異なると思っていた私の考えは崩れました。

それでは、青と赤色のサワガニの東西の境はどこでしょうか。物部川の西隣の国分川を調査しました。下流部は赤色のサワガニですが、上流部の新改には青色のサワガニがいました。鏡川も下流部は赤ですが、工石では青色のサワガニが見つかりました。仁淀川、鏡川、国分川は、下流に赤色のサワガニが、上流に青色のサワガニがいることが分かりました。

東部の河川は青系統だと分かりましたが、西部の河川はどうなっているのか。新莊川、松田川、下ノ加江川と調査すると、赤色のサワガニと茶系のサワガニで、青色のサワガニは見つかりませんでした。

このことから、青色のサワガニは、物部川より東と、ほぼ国道439号から北に生息し、それ以外の場所では、赤色のサワガニが生息していることが分かりました。茶色のサワガニはその両方に生息していました。



いろんな情報
をお待ちして
います。



問い合わせ・連絡先

社会教育課 町史編さん室（内線 31）

☎ 893 - 2012 FAX 893 - 2013